

ド七ニ相當ス。

年 齡	二十年代	三十年代	四十年代	五十年代	六十年代	七十年代	八十年代
膽石例數	二 名	一 名	一 名	四 名	六 名	三 名	一 名

但シ右表中六十年代ノ者最多數ニシテ其六名中二名ハ男子ニシテ四名ハ女子ナリ、故ニ女子ノミノ六十年代ノモノハ十八名ニ對スル二二、二二「プロセント」ナリ、之ヲ「ボルリッングル」氏ノ報告ニ徴スルニ歐洲ニ於テハ六十一年以上ノ女子ニ就テハ二十五乃至三十三「プロセント」ナリト云フ、上記ノ事實ニ據リテ考フレバ、本邦殊ニ北陸地方ニ於ケル膽石例數ハ、歐洲ニ於ケルガ如ク比較的高老者殊ニ老婦ニ多クシテ、又解屍ノ際偶然ハ發見スルコトアルハ決シテ少ナシト云フヲ得ズ、故ニ人ノ言フ如ク本邦ニハ膽石病トシテ臨床上ニ之ヲ見ルコトハ或ハ少ナカラシモ解屍上ヨリ觀ルトキハ歐洲ニ於ケルト同ジク其實例多數ナリト云フモ敢テ不可ナカルベシ、

○所謂「胎毒下」ノ弊害

特別會員 岡本京太郎

(澤金)

一般幼兒ニ其健否ヲ問ハズシテ胎毒下シノ目的ニ種々ノ賣藥ヲ與フル弊習アルハ皆人ノ知ル所ナリ醫師ノ言未タ全ク俗耳ニ容レザルカ今日尙此習慣ノ驚クベキ信用ヲ以テ民間ニ行ハレツツアルハ是非モナシ同朋ノ愛兒即チ未來ノ國民ノ幾多ガ不知不識ノ間之カ爲メニ損害

ヲ蒙ルヤ蓋シ鮮少ナラサルベシ斯道ニ從事スルモノハ宜ク大ニ這般ノ弊習ヲ破棄スルニ努ムベキナリ先ニ弘田博士三輪博士等此種ノ賣藥ニ屬スル「マクリ」ナルモノ、害毒アル例ヲ舉ケテ世人ヲ戒メラレタルハ大ニ感謝スベキコトナラズヤ余ハ近來我金城療病院藥局長八十島氏ニ依頼シテ病苦ヲ惹起セル當該賣藥ノ分拆ヲ乞ヒ甚タ寒心スベキ結果ヲ得タリ依テ單簡ニ其病歷ヲ添ヘテ試驗成績ヲ記載セントス

病歷 塚本某女兒滿二年 三十七年一月二十九日初診

昨年夏左耳漏ニ罹リ醫療ニヨリテ輕快セシカ本年初ヨリ再發セシヲ以テ胎毒ト信シ數日前ヨリ胎毒下ト稱スル虎肉圓ナル丸藥ヲ二粒宛一日三回服用セシメツツアルニ爾來夜間數回發作性ニ號泣シ横臥位ニテハ哺乳セス大便一日二三回下痢ス哺乳スルモ攝食セス嘔吐ナキモ少ク咳嗽アリ扁桃腺腫脹腹部甚シク緊滿シ深部ノ觸診殆ト不可能ナリ特ニ心窩部膨隆ス但シ壓痛ナキカ如シ大便ハ液狀汚穢暗灰白色ニシテ脂肪多シ熱ナク耳疼痛ナキカ如シ而シテ他ニ害因トシテ徵スベキコトナカリシヲ以テ所調賣藥ニ因スル胃腸加答兒ト診斷シ彼ノ賣藥ヲ嚴禁シ硝蒼ザロール劑及鹽里茂百布聖劑ヲ處セリ同夜ヨリ更ニ「コーリック」發作ナク安眠シ漸次食欲増進シ嘻戲スルニ至レリ大便モ亦次第ニ良性トナリ二月三日ニ少ク黃色ヲ帶ヒ六日ニ及ンテ硬糞一日一回トナリ腹緊滿モ從テ消退セリ

患兒ノ母ヨリ右虎肉圓ノ殘包ヲ得タルヲ以テ包紙ニ記セル主治効用及用法ヲ見ルニ曰ク「抑此藥は古より傳來小兒胎毒一切の妙法にして云々」(中略)「飯令無病の小兒たりとも常々養生の爲め

用ひ置くときは生長の後諸々の「カサ」腫物の愁なし云々（中略）用法一才の子には毎日一粒宛三度二才子には二粒宛三度成長に隨ひ年の數に應し素湯にて用ゆべし云々（下略）ト由是觀之本藥ハ特ニ小兒ノ爲ニ製造セラレシモノ也依テ直ニ八十島氏ニ鑑定ヲ乞ヘリ氏ノ試驗成績左ノ如シ
賣藥試驗成績

一虎肉圓

一包

營業人 ○○○○

一右賣藥ハ別紙添付シタル紙ヲ以テ包ミ規定ノ賣藥印紙ヲ貼付シアリ

一明治三十七年二月三日何某氏ヨリ鑑定ノ依頼ヲ受ケ其試驗ヲ施行スルニ成績左ノ如シ

外觀

一本品ハ微ニ油樣ノ光輝ヲ有スル暗褐色ノ細丸ニシテ乾固狀ヲ呈セリ而シテ一包中四十一粒ヲ

有ス

重量

一本品一丸ノ重量ハ約〇、〇〇五瓦ニシテ又一包ノ重量ハ〇、二〇五瓦ナリ

臭味及反應

一本品ノ一小粒ヲ齒間ニ於テ咀嚼スルニ稍甘味ヲ覺ヘリ暫時ノ後著ク辛辣ヲ來シ數時間ヲ經テ消退セリ又本品ノ反應ハ酸性ヲ徵セリ

試驗

一本品大約三分ノ一量ヲ取り依的兒ヲ以テ能ク浸出シ其浸出液ヲ蒸發スルニ淡褐黃色ノ油狀

物ヲ留ム而ノ茲ニ得タル殘留油狀物ハ一般植物油ニ類スル臭氣ヲ備ヘリ此少量ヲ舌上ニ附スルニ初メ緩和ナルモ暫時ノ後燒刺ノ感ヲ起シ漸々ニ其度ヲ増シ大約五時間ヲ經ルノ後全ク消退セリ

一前項ニ於テ得タル所ノ油狀物ヲ自己ノ手膊ニ塗布シ約六時間ヲ經テ之ヲ驗スルニ細小ナル腫狀物ヲ生シテ引赤セリ而ノ此亦小腫ハ翌日ニ至ルモ尙依然タリ

以上ノ反應ニ依リ考フルトキハ淡褐色油狀ノ殘溜物ハ巴豆油ナラント鑑定ス其他一般分拆法ニヨリ之カ試驗ヲ施行スルニ本劑中ニハ他ニ劇毒藥ノ存在ヲ認メス

右試驗ハ明治三十七年二月三日着手同年同月七日終了ス

月 日

八十島庄五郎

如此夫レ右虎肉圓ナルモノニハ巴豆劑ヲ證明シ得タリ特ニ其對小兒藥トノ用井ラレタル豈寒心セサル可ケンヤ

病歷 長澤某男兒齡三ヶ月 三十七年一月十一日初診

分娩後母乳等ニ變常ナカリシモ俗習ノ如ク先ツ糖湯及艾浸ヲ與ヘ爾來少ク吐乳アリシカ三週間ヲ經テ鵝口瘡ヲ生セシヲ以テ二十日前ヨリ胎毒下犀角治涼圓ナル煉劑ヲ與ヘツ、アリ爾來哺乳ニ際シテ號泣シ又時々發作性叫啼アリ大便下利シ粘液様灰白黃色ヲ呈シ吐乳増加シ夜間膝上ナラテハ横臥シテ眠ラス鵝口瘡益々増加シ漸次羸瘦スト顏貌蒼白脂肪少ク筋發育惡ク口

粘膜一汎ニ鷺口瘡ヲ以テ被ハレ舌繫帶稍短心窩緊滿スルモ壓痛ナシ陰囊乾痂ヲ被リ鼠蹊腋窩頸頂ニインテルトリゴヲ現ハシ糞ハ黃褐色粘稠ニシテ酸性胆汁反應著明少ク蛋白反應アリ鏡下粘液塊鷺口瘡菌ヲ見ル目下母ニ脚氣ナク泌乳十分体重九百匁ナリ依テ所謂胎毒下ナル賣藥ニ因スル「ヂスベプシー」ト診斷シ其服用ヲ嚴禁シ鹽里茂ペプシン劑ト硼酸水ノ口内洗滌ヲ處シ入浴セシメシニ翌日ヨリ號泣吐乳及鷺口瘡減シ十四日ニ至リ吐乳下利止ミ鷺口瘡消失シ更ニ發作性號泣ナク氣嫌ヨク哺乳如常安眠ス只便尙粘液性ナルノミ二十八日ニ至リ常糞トナリ毫モ胆汁反應ナク体重九百三十匁トナリシヲ以テ休藥ス

依テ犀角治涼圓ナルモノヲ求メテ其効能書ヲ見ルニ曰ク「小兒一切胎毒より發る病を治す○頭瘡禿瘡黃胆、瞤耳、口瘡、遺毒、走馬牙疳、鷺口瘡、胎毒眼、痘瘡、麻疹の餘毒○大人……中畧……服法は小兒初生より三歲迄藥匁三分を一日に三度に四歲より七歲迄藥目八分を一日に三度に……下畧……」ト故ニ本藥ハ特ニ小兒ニノミ對シテ製セシニハ非サレヒ小兒胎毒下トシテ當地方ニ行ハル、モノ、中ニハ尤モ有名ナルカ如シ而シテ試驗成績左ノ如シ

賣藥試驗成績

一犀角治涼圓

一種

○○○○製

一右賣藥ハ袋入ニシテ表面ハ犀角治涼圓ノ名稱ヲ記シ裏面ニハ規定ノ賣藥印紙ヲ貼付シ而ノ藥品ハ貝入ニシテ別紙効能書ヲ以テ包被セラル

一明治三十七年二月十九日之カ鑑定ヲ依頼セラル依テ其試驗ヲ施行スルニ成績左ノ如シ

外觀

一 本品ハ 舐劑ニシテ 黒褐色ヲ 呈シ 濃稠越幾斯様ノ 稠度ヲ 有ス 而ノ 全量六五瓦ヲ 有ス
臭味及反應

一 本品ノ 少量ヲ 舌上ニ 取り之ヲ 驗スルニ 甘味中一種ノ 苦味及大黃ニ 類スル 特異ノ 臭氣ヲ 有ス
且ツ 唾液ヲ 黄染セリ 而ノ 本品ノ 反應ハ 酸性ヲ 呈セリ

試驗

(一) 本品ノ 少量ヲ 熾灼スルニ「カロメル」ニ 類スル 焦臭ヲ 放チ 次テ 澱粉ヲ 燃燒スル 如キ 臭氣ヲ 發散
シ終ニ 灰黑色ノ 殘留物ヲ 留ム

(二) 本品 少量ヲ 試驗管中ニ 取り 水ヲ 加ヘテ 溫浸スルニ 其液 黃色ヲ 呈シ 管底ニ 稍多量ノ 殘渣ヲ 止
ム

(三) 前項ノ 殘渣ハ 黃色ニシテ 植物性粉末ニ 類似セリ 而ノ 尙他ニ 黒褐色ノ 物質ヲ 含有セリ

(四) 本品ヲ 顯微鏡下ニ 照視スルニ 充分ニ 明視スルヲ 得サルモ 篩狀管及圓形ノ 澱粉小粒ヲ 有スル
植物性ノ 粉末ノ 他ニ 黒褐色ノ 鑛性物ヲ 認視セリ

(五) 本品ノ 水性浸液ニ 稀鹽酸ヲ 滴加スルニ 其暗黃色ハ 忽ニ 鮮黃色ニ 變遷セリ

(六) 本品ノ 水性液ハ 之ニ 安母尼亞水ヲ 加フルニ 直ニ 血赤色ヲ 呈セリ

(七) 本品ノ 酒精性液ニ 苛性亞爾加里液ヲ 加フルニ 直ニ 赤紫色ニ 變セリ

(八) 本品ノ 熾灼殘渣中ニ ハ 炭酸石灰ヲ 含有ス

(九) 本品ノ熾灼灰分ニ稀鹽酸ヲ加ヘテ微温ヲ與フルニ瓦斯ヲ發生スルノ後全ク溶解セリ

(十) 前項ノ鹽酸性液ハ黃色血滲鹽ニ依リ藍色ヲ呈セリ

(十一) 前項鹽酸性液ハ赤色血滲鹽ニ依リ青色ヲ呈セリ

(十二) 前項ノ鹽酸性液ニ苛性亞爾加里ヲ加フルニ灰白色ノ沈澱ヲ生シ終ニ赤褐色ニ變遷セリ

(十三) 本品ノ熾灼灰分ハ之ニ硝酸ヲ加ヘテ加熱スルニ帶赤褐色ヲ以テ溶解セリ

(十四) 硝酸性液ハ之ニ黃色血滲鹽液ヲ加フルニ直ニ深藍色ヲ呈セリ

(十五) 硝酸性液ハ之ニ赤色血滲鹽液ヲ加フルニ暗赤褐色ヲ呈セリ

(十六) 苛性加里液ハ硝酸性液ニ對シ暗褐色ノ沈渣ヲ生セリ

右記載シタル試驗ハ其大要ヲ記スルモノニシテ尙一般分析法ニ依リ之カ驗查ヲ施行スルニ他ニ有毒物及其他ノ物質ノ存在スルヲ認メス而シテ以上ノ成績ニ依リ本品中ニハ鉄粉及ヒ大黃末ノ混合物ヲ單舍利別ヲ以テ粘合シタルモノト鑑定ス

一以上ノ試驗ハ金澤市彥三町金城療病院ニ於テ施行シ明治三十七年二月十九日着手全年全月二十三日結了

明治三十七年二月二十五日

鑑定人

八十島庄五郎

右ノ外余ハ同氏ニ依頼シテ尙四種ノ鑑定ヲ乞ヒシニ左ノ成績ヲ出セリ

たいどく下し明治丸 (對小兒藥ニ巴豆油、甘汞及大黃ヲ證明シ

瘡下し胎毒丸 (主トノ對小兒藥ニ巴豆油、枸橼酸鉄及大黃ヲ證明シ

小兒胎毒丸

(對小兒藥)ニ巴豆油、大黃及硫化水銀ヲ證明シ

キンドル丸

(對小兒藥)ニ甘汞、炭酸マグネシヤ、大黃ヲ證明ス

之カ試驗ノ詳細ハ氏自ラ發表セラル、ナルベシ

以上ノ記述ニヨリテ今迄余等ノ信セシ「賣藥ハ無害ナラン」トノ考ハ餘リニ樂天的ナリシヲ知レリ鉄粉ト大黃ヨリ成ル通常藥スラ己ニ「ヂスベプシー」ヲ惹起シテ兒ノ發育ヲ害セリ彼ノ巴豆劑カ胃腸加答兒ヲ喚起セシ如キハ素ヨリ其所ナリ賣藥ノ安ンス可ラサル斯ノ如シ然レモ一汎賣藥ハ法規ニ從テ調製スルモノナレハ余ハ之ヲ以テ原造者ガ如此危險ヲ敢テシタリト信スルニハ非ス又奸商ナルモノアリテ而カク偽造セシモノナリヤ否ヤヲ問フニ非ス只要スルニ坊間ニ行ハル、賣藥中時ニ危險ナルモノアルガ故ニ特ニ小兒ヲ療スル醫師ハ深ク此点ニ留意センコトヲ欲スル而已終ニ望ンテ余ハ八十島氏カ至難ナル此分拆ヲ遂行セラレタルノ勞ヲ謝ス

前號正誤

頁	行	誤	正	頁	行	誤	正
七	左ヨリ五行	日	白	全	右ヨリ五行	狀ヲ重ク	狀ヲ重ク
全	左ヨリ四行	×	ズ	全	右ヨリ六行	甚シクノ下	「大ク」ヲ脱ス
八	右ヨリ二行	ハ	ズ	全	右ヨリ九行	上記ヲ	上記ノ
全	右ヨリ六行	脾	痺	全	左ヨリ二行	爛	爛
全	右ヨリ九行	脊髓ノ下	「炎」ヲ脱ス	十一	右ヨリ六行	保テ	保テ
全	左ヨリ三行	何	前	全	左ヨリ六行	現ハシ	現ハレ
全	左ヨリ二行	舉	拳	十二	右ヨリ三行	ア	ブ

九 右ヨリ八行 ヨリ
全 左ヨリ二行 下腿ハ
十 右ヨリ二行 落テ元ヨリ殆
全 右ヨリ三行 關節シ
ヨク
下腿ト
落テ殆
關節ニ

全 右ヨリ五行 癰
全 右ヨリ六行 盧
十三 右ヨリ一行 至
經 膚 麻 (以下同シ)

○横位分娩ノ一例

特別會員 藤 岡 勝 治

(洲珠)

明治三十六年七月十七日隣村某ナルモノ分娩困難ノ故ヲ以テ余ノ來診ヲ乞フ乃チ車ヲ驅リテ赴ク既ニ着シ診スルニ患者年齡三十六歲五回ノ經產婦ニシテ十六歲月花始メテ開キ爾來整然タリ昨年十月以來經閉。妊娠經過異常ナク昨日午前八時頃ヨリ陣痛發作シ來リシモ余ノ到着前後ニ於テ殆ント休止シタリ精診スルニ第一横位ノ第一分類ニシテ胎兒ノ心音ハ聽ク能ハズ母體ノ脉膊百二十、体温三十七度五分陣痛最モ微弱ニシテ陰門ヨリ胎兒ノ右上肢露出セリ余ハ暫時思ヒ迷ヒタリ斯ル患者ニ於テ素ヨリ自然ノ分娩機轉ヲ期待スベクモアラズ須ラク産科的手術ヲ決行セザル可カラザル事明カナレドモ回轉術ヲ行フベキカ將タ斷頭術若クシハ切胎術ヲ行フベキカ乍併未ダ遷延性横位ニモ非ザルガ故ニ先ヅ回轉術ヲ行フニ決シ導尿後全手ヲ膈内ニ挿入シ子宮内ニ至リ頸位ニ回轉シ鉗子ヲ用ヒ娩出セシメント謀リタレモ高在頭ナルヲ以テ遂ニ其ノ目的ヲ達スル克ハズ且ツ危險漸ク迫リ來リシカ故ニヤムナク穿顱器ニテ穿顱シ「イル